

VOL.
99

日赤の
森

2017
January



【診療科トピックス】

チーム医療で
安心・安全な
治療環境づくり
～血液腫瘍内科～
(3面)

表紙写真：ブラックジャックセミナーの様子

www.takatsuki.jrc.or.jp

中核病院として、
これまで以上に安心で
安全な医療を提供してまいります。



新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、我が国は急速にすすむ高齢化社会を迎え、ここ数年の国民医療費は40兆円を超えています。このため医療資源の有効活用を目的に、病床の機能分化や地域連携を促進し、高齢者が要介護状態を迎えても、今まで住み馴れた地域・環境の下で自分らしい暮らしを続けられるよう地域全体で連携し、支援する「地域包括ケアシステム」の構築に向けて市町村・国や医療・福祉関係者の間で活発に議論がなされています。

また昨年には、がん対策基本法が改正され、基本理念としてがん患者さまが尊厳を保持しながら安心して暮らすことのできる社会の構築を目指すことを掲げています。

当院は、大阪府がん診療拠点病院・地域医療支援病院としてさまざまながん患者さまの診療を行なっています。病状に応じた手術や化学療法、放射線治療などを行ない、がん相談支援センターや緩和サポートチームが患者さまの療養生活や不安の相談に対応しています。

本年も地域医療連携と救急医療体制をより充実させ、これまで以上に登録医の先生方との連携を深め、皆様に必要とされる地域の中核病院として安心で安全な医療を提供できるよう職員一丸となり努力して参ります。

今後とも引き続き地域の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いを申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 29 年 1 月 院長 田 畠 政 郎

診療科 トピックス ～血液腫瘍内科～



チーム医療で安心・ 安全な治療環境づくり

血液腫瘍内科部長 安齋 尚之



診療内容

当科では、「白血病」、「悪性リンパ腫」、「多発性骨髄腫」などの造血器腫瘍の他、「再生不良性貧血」、「骨髄異形成症候群」などの貧血性疾患、「特発性血小板減少性紫斑病」など血小板の異常など血液疾患全般の診療を行っています。

患者様のQOL（生活の質）の維持・向上を目指し、また高齢の患者様や合併症を持っている患者様の治療も行っています。症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めて極め細かな対応を心がけていきたいと考えています。

当科では多職種の「チーム医療」により患者さまにあった治療法を計画し、安心・安全な治療をおこなっています。



造血幹細胞 移植とは

血液腫瘍内科での移植とは、血液のもととなる「血液の卵」のような細胞を造血幹細胞といい、何らかの原因により正常に働かなくなった造血幹細胞を入れ替える治療法です。また、強力なGVL効果も目的の1つです。GVL効果とは白血病等の造血器腫瘍の治療として造血幹細胞移植を行った後に、ドナーのリンパ球が腫瘍細胞を異物とみなし、攻撃することで得られる抗がん効果のことです。

当院では無菌室を備え、臍帯血バンクネットワーク移植施設であり、日本血液学会専門医・造血細胞移植認定医による患者様にあった治療法を提案しています。

血液腫瘍内科での移植とは、血液のもととなる「血液の卵」のような細胞を造血幹細胞といい、何らかの原因により正常に働かなくなった造血幹細胞を入れ替える治療法です。また、強力なGVL効果も目的の1つです。GVL効果とは白血病等の造血器腫瘍の治療として造血幹細胞移植を行った後に、ドナーのリンパ球が腫瘍細胞を異物とみなし、攻撃することで得られる抗がん効果のことです。





緩和ケアチームスタッフ一同

苦しみが少しでも
“^{ゆる}緩み” “^{やわ}和らぐ”ように。

◎ 緩和ケア認定看護師の役割

当院は大阪府指定がん診療拠点病院であり、がん対策基本法に基づき、がんと診断された時から緩和ケアの提供を推進しています。緩和ケアはがん末期とイメージし敬遠される方もおられますが、がん患者様のQOL（生活の質）を高めることを目標に、がんに伴う心身の症状をやわらげ、あなたらしい生活を送ることをサポートするものです。がんと診断された時から終末期までの全期間を通して、がん治療と同時に緩和ケアも選択できます。

緩和ケア認定看護師として、がん治療や療養生活の一助となり、患者様ご家族の様々な苦しみが少しでも“^{ゆる}緩み” “^{やわ}和らぐ”よう、お気持ちを伺いながら一緒に考えたいと思っています。



藤原 和子認定看護師

◎ 緩和サポートチームの活動

現在は緩和サポートチームの看護師として活動しています。チームでは、主治医の依頼を受け、緩和ケア医・看護師・薬剤師・臨床心理士と協働し、外来入院に関わらず、症状緩和や在宅での生活など、患者様ご家族、主治医やスタッフと共に考えサポートしています。

具体的には、

- ◇がんに伴う、身体之苦痛症状の緩和
- ◇告知や治療、終末期の過ごし方など様々な不安に対して心理的なサポート
- ◇ご家族のサポート
- ◇療養生活の相談
- ◇緩和ケア病棟入院申し込み などです。

“いつでもどこでも緩和ケア”を提供できるよう、患者様ご家族の心に寄り添いながら療養生活のサポートをさせて頂きたいと思っています。

「地域医療研修」 レポート

《横山 友研》



初期研修医の横山と申します。この度、鹿児島県の徳之島で2ヶ月間の地域医療研修に行って参りました。こうして文章にする機会をいただきましたので、簡単ですがお伝え致します。

徳之島らしい医療事情

徳之島は、鹿児島県の南西490kmに位置する人口約2万7000人の島です。周辺には奄美大島、沖永良部島、与論島などがあり合わせて奄美地方と呼ばれていますが、そもそも島の名前を聞いたことがない方も多いことだと思います。今回僕は徳之島の数少ない総合病院の一つである宮上病院で研修させていただきました。

さて、離島の医療というと皆さんどのようなイメージをお持ちでしょうか。少ない人員、乏しい物資…。そんな印象が強いのではないのでしょうか。僕もそんな現場を想像しながら、ドキドキしつつ研修初日を迎えました。実際に働いてみると、徳之島ならではの医療事情が見えてきました。風邪を引いた子供から庭先で転んだお年寄りまで、毎日様々な患者様が外来を受診されます。〇〇科、△△科という診療科ごとの専門外来は全国から助っ人に来る先生方が担当し、数ヶ月に一度の事もあるため患者様が列をなします。大阪の病院ではまずありえない光景です。

CTやMRIが撮影でき必要な薬も大半は取り揃えてありますが、専門的な検査や治療はすぐにはできません。鹿児島や沖縄の病院と連携をとって患者様を送り出すのも緊急時には立派な仕事になります。また、離島の医療は自然との密接な関わりの中にあります。畑や林には毒蛇のハブがおり、咬まれた人が毎日のようにやって来ます。ヘリコプターでの救急搬送が台風の接近で中止になったこともあります。そのような環境の中で、患者様にとって最善となる医療を行わなければなりません。僕自身が外来診察を担当する機会も多々あったのですが、知識も経験も足りない事だらけで島の先生方に指導してもらいながら勉強の毎日でした。自分自身で行った診断や治療の結果が患者さんを通して直接自分に返ってくる、という研修医にはなかなか得難い経験をすることができ、責任を持って診療することを自覚する毎日でもありました。

島の医療に貢献することが人生の目標の一つに

当初のイメージとは違い、島で出来る医療は思った以上に多彩で奥が深いと感じました。設備を新しくしたり、離島ならではの症例で論文を書いたり、電子カルテを導入したりと、病院の総力を上げて最新の医療を目指す姿がとても印象的でした。

休日は趣味の釣りを楽しむことができ（大阪では考えられないほどの大漁で本当に最高でした）、飲みに行き、島料理をごちそうになり…。行く先々で島の内外問わず沢山の方と知り合え、仕事以外の面でも大いに癒された2ヶ月間となりました。私自身が一人前の医師になったら、お世話になった徳之島の医療に貢献する事を人生の目標の一つに掲げようと思います。このような貴重な研修機会を下さった高槻赤十字病院と宮上病院に心から感謝致します。ここでは書き尽くせない土産話はまだまだありますので、院内で私を見かけた際はお気軽にお声掛けください。それでは失礼致します。



副院長 玉田の登録医療機関訪問記 No.8

地域医療連携機関として登録をいただいている元廣先生をご紹介します。
今後も元廣先生との連携を深め、地域住民の皆様の健康を支えていきたいと思ひます。

◎院長 元廣 高之 先生からのメッセージ

この度、ご縁あって長年、茨木市の地域医療を担ってこられた「岩村医院」を継承し、新たに「もとひろクリニック」を開院させていただきました。私自身、生まれ育った茨木市でこのように地元の皆様の健康をサポートさせていただく機会をいただきましたことに感謝しております。丁寧な問診と診察を心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。

【診療方針】

- ①まず患者様の健康・幸せを第一に考え、誠実に対応することにより、地域のかかりつけ医として、信頼されるよう努力いたします。
- ②高い有効性と安全な医療を提供できるように、常に努力いたします。
- ③高度医療機関との連携を図ることにより、患者様が迅速に適切な治療が受けられるように配慮します。

【主な診療内容】

高血圧、糖尿病、消化管疾患、生活習慣病、急性疾患、健康診断・企業診断、予防接種

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○
午後診 17:00 ~ 19:00	○	○	/	○	○	/

地域のかかりつけ医として
安全で適切な治療に努めます。



元廣院長

玉田副院長

登録医の
先生の
ご紹介

もとひろクリニック

院長 元廣 高之先生

茨木市並木町 1-6

茨木スクエアビル 1F

TEL: 072-632-8751

【休診日】

水曜日・土曜日午後 / 日曜日 / 祝日

登録医療機関のご紹介

なかクリニック

院長 中 禎二先生

住所: 茨木市中穂積1-2-50 TEL: 072-631-8808

◎院長 中 禎二 先生からのメッセージ

当院は、小さなお子さんからご年配の方まで、安心して来院して頂けるアットホームなクリニックです。

患者様に寄り添った診療を心がけ、無駄な治療を行わない、シンプルな治療を目指しています。また、平日にお仕事が多忙で来院が難しい方でも、土曜日の昼も診療していますので安心して通院が可能です。

【診療内容】

- ①内科・各種健診②消化器内科(胃癌や大腸癌の術後のケア可。経鼻消化管内視鏡検査可、レーザー光源搭載の新世代内視鏡システムLASEREOを導入しています。)
- ③肛門外科(内外痔核・裂肛・肛門周囲膿瘍・痔瘻・肛門ポリープ等。日帰り手術可内痔核はジオン注射・手術可。)
- ④小児外科(でべそ、へその膿、便秘、おもらし、けが、やけど、お尻の腫れ、包茎、陰嚢の腫れ、お乳のしこり、爪の病気、腹部手術の術後のフォロー)
- ⑤外科(けが・打撲・捻挫・骨折・やけど・虫さされ・できもの・まき爪などの爪の病気・脱腸・ストーマケア等)
- ⑥緩和医療内科(疼痛治療、癌患者の緩和治療、在宅ケア、医療用麻薬を扱っています。往診、訪問診療可。)

【専門資格】

- 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 ●日本癌治療認定医機構・がん治療認定医 ●日本外科学会専門医・指導医 ●日本医師会認定産業医
- 日本消化器外科学会専門医 ●日本食道学会食道科認定医 ●内痔核治療研究会指定 ALTA 実施医 ●緩和ケア指導者研修会修了

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 13:00	○	○	○	○	○	○
16:00 ~ 19:00	○	○	/	/	○	△

【休診日】 日曜日 / 祝日

土曜日は午前・午後と診療しております。

※土曜日 14:30~17:30



中院長(中央)と
小林乳癌外科部長(左)
今田消化器科医師(右)

年齢を問わず、患者様に
寄り添った診療を目指します。



未来の外科医たちが手術と検査を体験

10月30日(日)、当院で中学生・高校生を対象に医療体験セミナー(ブラックジャックセミナー)を開催しました。

今回で3回目となるこのセミナーは、昨今、医学生が外科医になるのを敬遠しがちで外科医の数が増えないという現状に目を向け、中高生の時から医療に興味を持ってもらい、将来その道に進む人が医療人を目指す為の意識付けになれば良いという思いからジョンソン・エンド・ジョンソン(株)とともに当院で共催したものです。37名の中高生が参加され、手術着に着替えた後、各ブースでの体験が始まります。

各ブースでは、医師や看護師が待機し、参加者一人一人に付いて手ほどきを行います。本物の糸や針(鈍針:先端が丸くなっている)を使用した「糸結び」や「皮膚縫合」技術体験、手術で使用する「腹腔鏡」や「3D内視鏡」の操作体験もあります。「骨接合」ではネジを使って骨にプレートを固定する体験を行ない、「超音波メス」で鶏肉を切開したり、人形(実際に医師が練習で使用するリアルで精度の高い人形)を使つての「消化管内視鏡(胃・大腸)検査」も体験しました。「心臓カテーテル検査」ではステント留置(血管を広げる為の医療器具)の手技を体験するなど参加者の方は初めての体験に緊張もあったと思いますが、笑顔を見せてくれました。

体験終了後の修了式では、平松副院長から英語のスピーチで写真とハードカバー付きの修了証が参加者全員に手渡されました。



※ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニーは、深刻な医師不足が懸念されている中、2005年より、実際に治療現場で使用する医療機器を用いた手術体験セミナーを全国の病院と共催で実施しています。

現在は、「ブラック・ジャック セミナー」として青少年の手術体験機会を提供することで、より多くの学生たちが夢と希望をもって医療従事者を目指してくれるとともに、これをきっかけとして医師になる青少年が増えるという期待をもって、将来の日本の医療に貢献していきたいと考えています。

冬は感染症(インフルエンザ・ノロウイルス)の季節! 予防策は万全ですか?



STOP!!
感染!!

院内感染対策チーム(ICT)松下めぐみ

インフルエンザやノロウイルスは、毎年冬になると流行する感染症です。病院には、免疫が低下し感染症にかかる重症化しやすい患者様が多く入院されています。うがいや手洗いなど日常的な予防策に加え、入院患者様を感染症から守るため病院内での感染拡大防止にご協力をお願いいたします。

【面会について病院からのお願い】

手洗い

病室の出入りの際はこまめに手を洗ってください。病室入口に設置しているアルコール手指消毒剤をお使いください。

罹った方

発熱、咳、嘔吐、下痢などの体調不良や1週間以内にインフルエンザや感染性腸炎に罹られた方との接触がある方、高校生以下の方は面会をご遠慮ください。

マスク

咳やくしゃみのある方はマスクを着用してください。鼻をかんだティッシュはゴミ箱に捨て、手を洗ってください。

禁止・制限

地域の流行状況に応じ面会禁止や1階エリアへの立入制限を行う場合がありますのでご協力ください。

※当院は、北摂四医師会感染対策ネットワークを通じ、地域ぐるみで感染対策に取り組んでいます。

「食の知識で体を守る」 予防医学の大切さを 子供たちに

高槻中学・高等学校出張授業
～金子医師の食育講演～



10月5日(水)～11日(火)、11月7日(月)～10日(木)の期間にわたり、高槻中学・高等学校において当院の金子糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長が講師となり、中学3年生と高校1年生を対象とした「食育出張授業」が高槻中学校・高等学校、道端良子先生のご協力のもと、開催されました。

金子医師は、「自分の知識と知恵を使って口にする食べ物が健康にとってよいかどうか考える習慣を身に付けてください。考えることは自分の体を守る一番強い武器になります。」と食べ物(炭水化物・タンパク質・脂質)の流れについて、ペットボトルジュースなど血糖値が上がり過ぎてしまう食べ物の例を説明しながら、食育について熱心に講演しました。また授業の後半には食事や運動に関するディスカッションも盛んに行われ、生徒達の間で食事に関する関心がとても高まっていました。

当院では、地域の未来を支える子供たちに食の知識を授け、自身の健康を守る力(予防医学)を学ぶ取り組みを行っています。



緩和ケア病棟 クリスマス会



12月21日(水)、緩和ケア病棟スタッフとボランティアの企画により冬の恒例行事「緩和ケア病棟クリスマス会」をやすらぎホールにて開催しました。緩和ケア病棟ではボランティアさんが一年中活躍してさまざまなイベントを行ってくださいますがクリスマス会は特に大きなイベントです。

ボランティアの方々によるトーンチャイムの演奏、職員による歌やダンスの中、サンタクロースに扮した木元先生からクリスマスプレゼントのキルト飾りが入院患者様一人ひとりに送られると「ありがとう」の声や笑顔を頂くことが出来ました。

その後はギターやオーボエ、リコーダーの演奏や「サンタが町にやってきた」「あわてんぼうのサンタクロース」などの歌を患者様やご家族の方とともに合唱して心温まるひと時を過ごしました。



サンタやトナカイに扮装したスタッフによる合唱



心あたたまる
明かりたちが灯ります

冬季イルミネーション点灯

当院では2014年から冬の間だけ「入退院玄関前」の植込みにイルミネーションを設置しています。

患者様やお見舞いに来られた方に楽しいひとときと温かい心を感じてもらえればという思いで、病院の職員が手作り感溢れた飾りつけを行っています。

近頃めっきり寒くなり、感染症が流行する季節となりましたが、来院される皆様にとって、当院が心休まる空間であるよう今後も努めてまいります。

2日間の職業体験学習

社会課長 濱田 健司

日頃から地域とのふれあい、連携を大切に行なっている当院は毎年、地域の中学校が実施している「職業体験学習生」の受入れを行っており、今年は4校の生徒たちが学習に来られました。

看護体験・薬剤部・放射線科・検査部や事務部の仕事など、一般の方が普段見られない病院の裏側や災害時における救護班の派遣など、他の医療機関では体験できない赤十字独自の活動についても学習し、生徒さんからは「病院のことはあまり知らなかったので色々体験出来て良かったです」などの声が聞かれました。

職業体験を通して将来医療に係わる仕事に就いてくれる方が増えることを願っています。



中学生の皆さんが
赤十字病院の活動を体験

おすすめ レシピ

- ・鰯と豆腐のハンバーグ
- ・けんちん汁
- ・もずくの酢の物
- ・サラダ
- ・果物(オレンジ)
- ・ご飯(150g)

材料(1人分)

<鰯と豆腐のハンバーグ>

鰯のすり身	40g
木綿豆腐	50g
玉ねぎ	30g
味噌	4g

[付け合わせ]

ぶなしめじ	15g
エリンギ	15g
玉ねぎ	10g
人参	10g
塩	0.1g
コショウ	少々

<けんちん汁>

ごぼう	20g
大根	20g
人参	10g
生椎茸	5g
ねぎ	5g
ごま油	2g
出し汁	150ml
塩	0.5g
薄口醤油	2g

<もずくの酢の物>

乾燥もずく	1.5g
生姜	2g
マービー	2g
薄口醤油	2g
酢	10g

<果物>

オレンジ	75g
------	-----

<サラダ>

キャベツ	30g
レッドキャベツ	10g
ミニトマト	10g
ノンオイルドレッシング	10g



エネルギー	510kcal	炭水化物	83.0g	たんぱく質	20.2g
脂質	10.9g	塩分	2.2g	食物繊維	8.0g

作り方 鰯と豆腐のハンバーグ(一人分)

- ① 鰯は頭、骨、内臓を取り除き、包丁でたたいてすり身にする。
※鰯1尾(80g)で約40gのすり身ができる。
※既製品の「鰯のすり身」を使用してもよい。
- ② 豆腐はペーパータオルで包み軽く重しをのせ水切りし、元の重量の60%位になるまで水気を絞る。
- ③ 玉ねぎはみじん切りにし、レンジで3分加熱し粗熱を取る。
- ④ ハンバーグ種を作る。ボールに①～③と味噌を入れよく混ぜ、等分に分けて形を整える。
- ⑤ 200度のオーブンで12分焼く。
- ⑥ 付け合わせを調理する。ぶなしめじは石づきを取り、小房に分ける。
エリンギは食べやすい大きさに切る。玉ねぎは薄切りにする。
人参は短冊切りにする。
- ⑦ 熱したフライパンで⑥を炒め、塩コショウで味を調える。
- ⑧ 器に⑤を盛り、⑦を付け合わせる。



ハンバーグについて

ハンバーグはご家庭でも外食でも人気メニューです。しかしカロリーや塩分が多い料理でもあります。合いびき肉60gのハンバーグ(ケチャップソース)の場合
カロリー 約300kcal・塩分 約2g
参考文献:目で見える食品カロリー辞典 おかず・素材/学研/2008年
今月の献立、鰯と豆腐のハンバーグの場合
カロリー 約150kcal・塩分 0.6g

ここが
おすすめ!

◎豆腐を混ぜ込む事により、カロリーを減らす事ができます。
◎ハンバーグの種に味噌を加えて焼く事により、味噌の風味が口に広がり、ソース等をかけなくても薄味にする事ができます。

家庭で役立つ薬の話

「西洋薬」と「漢方薬」はどう違うの?

薬剤師 野間 敏也

「漢方は体に良さそう」「漢方に副作用はない」と思っている方は多いのではないのでしょうか? それではそれぞれの特徴を見てみましょう。

西洋薬は有効成分が単一のものが多く、一つの症状や病気に対して強い効果があります。また即効性があるといわれている薬剤が多いので、素早く効果を発揮したい時に向いています。しかし、複数の症状すべてに薬を処方すると薬の数が多くなり、それだけ副作用のリスクが高くなるという欠点があります。

一方漢方薬は、複数の生薬を組み合わせしており、それぞれが多くの有効成分を含んでいます。一つの漢方でさまざまな作用を持ち、複数の病気や複雑多彩な症状に効果を発揮します。一般的に作用はゆるやかで副作用も少ないとされ、証(しょう)と呼ばれる個々の患者様の体質に合った漢方薬が処方されます。しかし、漢方薬にも副作用があります。例えば、漢方薬の7割には味を整える甘味料として甘草が含まれており、複数種の漢方を飲む場合、甘草が重複してしまいがちです。甘草の過剰な服用で、むくみや高血圧など重篤な症状を引き起こすこともあるので、注意が必要です。

以上のように、西洋薬と漢方薬にはそれぞれ一長一短があります。わからないことがあれば医師、薬剤師と相談して、上手にお薬と付き合しましょう。

平成28年度冬期 (2月～3月) 糖尿病教室のご案内

当院では、糖尿病学会認定の専門医、糖尿病療養指導士、管理栄養士等が中心となり、市民の皆様が日常生活の中で正しい知識をもって健康管理が行えるよう、お手伝いさせて頂いております。
毎月開催される当院の糖尿病教室を是非お役立て下さい。

◎ 日 時 冬期 2月～3月 11時～13時20分 (受付は10時30分から開始)

◎ 場 所 当院3階 第一会議室・講義室 ※ 講師、テーマは予告なく変更する場合があります

(注1) 参加者多数の場合は、未受講者の方を優先させていただきます。(定員 20 名)

(注2) 受講を取り消される場合は、必ず一週間前までにご連絡ください。 ※ お車で来院し受講される方は、駐車券をお持ちになってご来場ください。

時間	2月14日(火)	3月14日(火)
11:00～ 11:20	糖尿病とくすり 薬剤師	患者体験談 意見交換会
11:20～ 11:40	糖尿病の検査について 臨床検査技師	患者体験談を通して 糖尿病療養指導士
11:40～ 12:00	食事療法 2 管理栄養士	食事療法 3 管理栄養士
12:00～ 12:45	糖尿病食試食会	
12:45～ 13:00	休 憩	
13:00～ 13:20	ミニ健康講座 糖尿病と運動 理学療法士	ミニ健康講座 糖尿病について 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長

主 催：高槻赤十字病院

受 講 料：お食事代実費800円(税込)を当日に頂きます。 つり銭のないようにご準備ください。

※ 申込書にご記入のうえ、医療社会事業部社会課までご持参下さるか、お電話にてお申しください。

〒569-1096 高槻市阿武野1丁目1番1号 072-696-0571 (内線 481 番)



医療関連書からインターネット端末まで

患者・家族向け 図書コーナーのご案内

当院では、患者様ご自身・ご家族が病気や治療のことを調べ、情報を得ることが出来るよう、がん関係書籍を中心とした医療関係の書籍やインターネット端末を設置した図書コーナーを開設しております。

他の患者さんやそのご家族にお勧めしたい本がありましたら、その書名をお教えいただけましたら幸いです。また、ご家庭で不要になりました医療関係図書等ございましたら寄贈を受け付けておりますので、ご協力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

ご利用時間・場所は下記の通りです。外来の待ち時間等に是非ご利用ください。

◎ご利用時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後3時
(土日・祝祭日・病院の休日を除く)

◎場 所 病院1階 ファックスコーナー前

◎お問い合わせ 高槻赤十字病院 診療情報管理課図書係





きれいな空気と緑の安らぎをご提供します 「エコロジーガーデン」

当院では、院内緑化により患者さまにとって快適な空間を提供するため、外来待合などに「エコロジーガーデン」を設置しております。

「エコロジーガーデン」は、空気浄化能力の高い植物と特殊土壌を組み合わせる使用することにより、室内の空気の質を高めることができるもので、この導入により、患者さまにより一層の“癒しと安らぎ”の空間を提供していきたいと考えております。

なお、この「エコロジーガーデン」は、下記企業等のご協力のもとに維持運営を行っています。

<エコロジーガーデン協賛企業> (50音順)

(株)あい友社
大阪神戸冷蔵(株)
(株)キンキ酸器
グリーンホスピタルサプライ(株)
(株)幸蔵
興和防災(株)
コーベベビー(株)
(株)国際興業大阪
(株)コクミン

(株)ソフトウェア・サービス
高槻交通(株)
東西化学産業(株)
(株)内藤建築事務所
ナニワ商事(株)
(株)播芳
(株)ビケンテクノ
(株)マルヨシ



当院のフェイスブックをご覧ください。Facebookは病院ホームページ及び
URL:<https://www.facebook.com/takatsuki.rc.hosp>から閲覧出来ます。

高槻赤十字病院の理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

高槻赤十字病院の方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、患者さま中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さまを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さまのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心を持ち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字に課せられた使命を果たします。



日本赤十字社 高槻赤十字病院
Japanese Red Cross Society

〒569-1096 大阪府高槻市阿武野1-1-1
TEL 072-696-0571(代表)
URL:<http://www.takatsuki.jrc.or.jp>
mail:trc@takatsuki.jrc.or.jp
発行責任者 事務部長 神谷 尚孝



人間ドック・健診施設機能評価認定施設